

第4回（令和6年度3回目）甲賀市観光振興計画審議会 会議録

【日時】令和6年10月18日（金） 14:00～14:55

【場所】みなくるプラザ 研修室2・3

◎出席委員

名簿：別紙のとおり

◎事務局

産業経済部長 近藤直人

産業経済部次長 兼 観光企画推進課長 山本典彦

観光企画推進課長補佐 中島章宏

観光企画推進課観光振興係長 福山由美子

観光企画推進課主査 竹若紗穂

観光企画推進課主事 奥村泰雅

◎傍聴 1名

◎次第

1. 開会

2. 議事

(1) 第2次甲賀市観光振興計画 第3期基本計画（案）〔答申案〕について

3. 報告事項

(1) パブリックコメントの実施について

4. その他

5. 閉会

次第1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

次第2. 議事

(1) 第2次甲賀市観光振興計画 第3期基本計画(案)〔答申案〕について

事務局： 第2次甲賀市観光振興計画 第3期基本計画(案)〔答申案〕について、資料1～4に基づき概要説明。

委員長： では、質問や意見がある方はどうぞ。

～質疑なし～

委員長： 第2次甲賀市観光振興計画 第3期基本計画(案)〔答申案〕について、承認ということによろしいか。

～異議なし・承認～

次第3. 報告事項

(1) パブリックコメントの実施について

事務局： パブリックコメントの実施について、資料5に基づき概要説明。

～質疑なし～

次第4. その他

《意見交換》

委員長： 来年度以降の審議会の開催についてはどうなるのか。

事務局： 現在の委員の皆さんの任期は令和7年9月30日までとなっている。本審議会については、計画策定に対するご意見をいただくことと、計画の進捗管理をしていただくこととなっている。来年度以降は計画の進捗状況について報告をさせていただきご意見を頂戴する場として本審議会を開催させていただくので、引き続きよろしくお願ひしたい。

委員長： 市に伝えたいことなどあればぜひ発言をお願ひしたい。

堀田委員： 昔から気になっていることがあり、甲賀市内に観光協会が2つある理由について聞きたい。

奥田副委員長： 合併協議会があり、その中で審議された結果、方向性としては一緒にということではあるが明確な理由までは分からない。小山会長とも先々は一緒にできればと話しているが、まずはそれぞれの地域の受け入れ体制等をしっかり整えてからということもある。

堀田委員： 湖南市は合併し1つの観光協会になっている。

委員長： 全国的に見ても、全体の組織があり、支部的な組織として観光協会などが複数あるところも珍しくはない。甲賀市の場合、背景が異なる地域であるため一緒になってプラスになる部分とそうでない部分があると思う。

奥田副委員長： 地域の文化やお祭りなど、2つの組織が一緒にできる部分とそうでない部分がある。2つの組織の上の組織を作るのが理想だとは思う。

大河原委員： 資料3の計画33ページに地域活性化戦略に市民意識の向上とあり、①市内観光資源に触

れる機会の創出として観光ボランティアガイドや国際交流協会の協力を得ながらとなっている。国際交流協会でも観光というテーマで何かできればと思っており、既に中国語や英語の通訳など協力をしている。来年度計画されている事業があれば教えてほしい。

事務局： 具体的な事業の計画はまだであるが、万博等に向けインバウンドの受入体制の整備など、ぜひご協力をいただきたいと考えている。

森井委員： 万博も控えており、シャトルバスも水口から万博会場に向け運行されると万博協会から聞いている。万博のお客様をどのように取り込んでいくか、情報共有しながら我々も協力していきたい。

奥田副委員長： 信楽の観光協会としてもインバウンド事業に力を入れている。将来、円高になった場合や感染症などの拡大などがあった場合などのことも考え、インバウンドに振り回されないよう足元をしっかりと固めながらインバウンドに取り組む必要があると考えている。

小山副委員長： 個人的な考えとしては、観光については甲賀と信楽という両方の名前を前面に出した方がPR力は高いと思っている。観光協会の名前から信楽が消えるのはマイナスである。調整が必要なことはたくさんあるが、最近信楽町観光協会長にも忍者衣装を着て忍者行列に参加していただいたこともある。忍者の衣装を着て信楽焼を同時にPRしていただくということも流れとしては非常に良いのではないかと考えている。

インバウンドについては、万博や国体などを見据え、今年度は万博のポータルサイトへの登録などを進めている。ガイドが付かないと公共交通機関での移動が厳しい現状であり、甲賀市の中にも有料観光ガイドが必要であり、育成に取りかかっている。観光協会公認ガイドの育成に向け、国際交流協会やびわこビジターズビューローにご協力をいただいている。JR草津線の利用促進についても、二次交通も含めたインバウンド対応が必要である。

糸田委員： パブリックコメントの実施について、現在予定されている周知方法でどれだけ意見が集まる見込みをされているのか。次につながる、将来に向け若い方の意見も取り入れていくため市の公式LINEも使ってみてはどうか。

事務局： パブリックコメントについては秘書広報課が総括となり、市公式LINEも秘書広報課が担当となる。今年度は、総合計画や10を超える分野別計画が見直しや策定期間を迎えることから、総括したパブリックコメントの周知として担当の秘書広報課にも伝え、市としてより分かりやすい情報発信ができるよう考えていきたい。

山本委員： 資料3の計画22ページ、甲賀市版DMOの構築について、持続可能な観光推進体制としての甲賀市版DMOの稼働用途はいつ頃か。

事務局： DMOについては、平成30年度に国が進める組織体制の構築として第2次観光振興計画に盛り込まれた。世界が進めているDMOや日本版のDMOの内容、また甲賀市がどのような形で組織を立ち上げていくかという内容が一致しない部分があった。やみくもに組織だけを立ち上げるのではなく、一旦立ち止まり、どのような組織にしていくのが一番甲賀市に相応しいのか検討していくため、今回計画に盛り込んでいる。それぞれがDMOについての共通認識を持ち、その後に甲賀市に相応しい体制等を検討していく必要がある。観光を地域活性化につなげる体制の構築が必要である。まずはこういった組織が一番甲賀市にとって相応しいかというところの検討からと考えている。

委員長： 和歌山県の高野山などは、今インバウンドの受入を積極的にやっているように見られるが、実はお寺によっては一切インバウンドの受入を行っていないというお寺も何件もある。また、岡山県の北部では、旅館の予約サイトが一切ない旅館もあり、電話予約のみを受け付けている。電話受付のみであっても今までの顧客とはつながっている。ブドウ農家も宣伝をすると今の顧客に渡す分以上のものが作れないから宣伝をしないという所もある。観光的な動向では、京都に観光に行くのがしんどいと思う日本人の方々が行く場所として選ばれるというのものもあり、一つの方法としてある。甲賀にとってはそちらの方が目指すべきスタイルなのではという気もする。

青森県の浅虫温泉では、今年から話題になっているのが、元々東北の熱海と言われる伝統ある温泉街であったのがコロナにより大打撃を受け、その中の3つぐらいの温泉宿が再生できないぐらいの状況になり、銀行も再生に協力してくれなかった。偶然、青森銀行とみちのく銀行が合併するということがあり、国のレビックの投資が入りDMCを作り、そのDMCに3つの宿の株を無償譲渡し、経営権も預け、そのDMCの組織が3つの宿を運営するようになった。それまでの経営者が部長や女将などの役職で雇われているという状態で運営をしている。これは再生の形の一環の中でDMCとして運営されている一例である。甲賀市においても今後、出てくるのかも知れない話ではある。来るべき時代に向けて仕組的なことは考えておくことは必要かと思う。

次第5. 閉会

以上 14時55分終了